

(一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り

「けやき」No. 26

令和5年12月15日発行



【最近の活動】～エル・パーク仙台～

- ・ 7月19日(水) / 第4回役員会
- ・ 8月23日(水) / ★2023年度第1回交流会 (I.A. 会員)
- ・ 9月6日(水) / 第5回役員会
- ・ 9月22日(金) / ★2023年度公開講演会 (吉川貴子会員) ※参加費500円(学生無料)
- ・ 10月4日(水) / 第6回役員会
- ・ 11月8日(水) / ★秋の見学会 ～七十七銀行金融資料館～
- ・ 11月22日(水) / 第7回役員会
- ・ 12月13日(水) / 第8回役員会

【今後の予定】～2024年(令和6年)～

- ・ 1月24日(水) / 第9回役員会
- ・ 2月17日(土) / 【新年会】仙台国際ホテル『翠林』※12:00～14:00

【新規会員・ご寄付のご紹介】

◆ 相澤 富美江

◆ 新規会員/ 長谷和子会員

岩村道子会長のご紹介で入会されました。東邦大学、放送大学を経て東京大学大学院で学位(博士)を取得されました。進化生態学がご専門です。東北大学大学院生命科学研究科の助教になられたことをお知りになった岩村会長が、仙台支部にお誘いして下さいました。

来年2月の新年会で自己紹介や研究についてお話しいただく予定です。

◆ ご寄付/ 佐浦千恵子会員・高橋政晴賛助会員

今年度、佐浦千恵子会員より支部の活動に役立ててほしいとご寄付をいただきました。

また、山形県にお住いの本部賛助会員、高橋政晴様よりご寄付をいただきました。

有難うございました。

【 追 悼 】

◆ 追悼 赤林京子さん

本年8月24日、名誉会員の赤林京子さんが96歳のご生涯を全うされました。ご長男の伸一様から私たちにご連絡をいただいたのは、長く暑かった夏がようやく一息つく気配を見せた9月の終わりのことでした。

ここ数年、直接お会いすることはありませんでしたが、手厚いケアを受けながらお元気に過ごしておられるとご家族様からうかがっておりました。恵まれた環境での大往生だったと拝察しつつも、私たちの心は大きな喪失感に包まれました。

赤林さんは1947年に東京女子大学をご卒業されました。国語を専攻しておられたそうです。1988年卒業の私とはずいぶん年齢が離れておりますが、同窓のよしみで追悼文を書かせていただくことになりました。十分なことを書けず心苦しい限りですが、お許してください。

赤林さんは率直で、ハキハキと物を言う方でした。大学女性協会に入会する際、直接お会いして説明を受けたときのことです。てっきり会のPRをなさるのかと思いきや、「あなた、本当にいいの？会費が毎年1万円くらいかかって、大した活動はしてないのよ。」と仰います。そのストレートな表現に驚くとともに、女性が勉強を続けるのが珍しかった時代に大学まで出た方というのは、やはりただ者ではないのだなという印象を抱いた記憶があります。

日本人は周囲に配慮するあまり、自分の意見を強く言えない人が多いと言われますが、赤林さんにはあてはまりませんでした。頭の良さや自信を兼ね備えておられ、周囲に付度したり卑屈になったりせず、いつでもしゃんとしてご自分の考えを主張しておられました。

御脚を悪くされてからは外出がままならず、支部の活動にも参加できないとのご連絡をいただくようになりました。赤林さんが学ばれた頃の女子大のこと、昔の大学女性協会仙台支部の活動のことなど、もっといろいろお話をうかがっておくべきだったと悔やまれます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◆ A.C.

【 追 悼 】

◆ 追悼 飯岡絹子先生

コロナ禍で久しくお目にかかれぬまま、お別れすることとなり大変残念でなりません。令和5年11月13日、満98歳でご逝去されました。

先生は休眠状態であった大学女性協会仙台支部の存続再生を願い、つくばの全国総会に一会員として出席され、本部との絆が出来、帰仙後、中興の祖・故藤崎支部長を中心に会員拡大に尽力され、活動が再開されたと伺いました。1996年頃でしょうか。

2000年から4年間先生が支部長を務められ、2003年4月、第46回通常総会が仙台国際センターで開催の運びとなり、会員一丸となって遣り抜いた20年前を懐かしく思い出します。80歳近い先生が飛行場から直行で会合に出席されたこともありました。

いつもにこやかに、おしゃれで小柄ながら、信念を持って積極的に行動され、人脈をつなぎ、ことを運ぶパワーは絶大で、人望があつく、各女連（各種女性団体連合協議会）始め多方面でご活躍でした。東日本大震災の折には、日赤の宮城県支部長でいらした飯岡先生を介し、大学女性協会から緊急義援金100万円が宮城県に届けられました。

先生は四度も災害に遭われて得た教訓を折々お話し下さいましたが、先生の強さの原点は東京の空襲で身一つで逃げ命拾いされ、教員免許と資格で困難を乗り越え、人生を切り開かれたところにあるかとお察しします。若さを無駄使いせずしっかり学ぶ大切さ、生き方を教えて頂きましたが、私には耳の痛いことも…。お家でTVを観る時も片時も手を休めること無くされていたネックレス作りも例会で一緒しました。プレゼントすると喜ばれるのよ…と、ご多忙の中サービス精神もお忘れになりません。2015年の仙台で二度目の定時総会のバザーにも出品して下さい、健康長寿にあやかるネックレスとして、みなさん喜んでお買い上げ下さいました。

思い出は尽きませんが、年を重ねることの難しさを実感しております私には、先生のお年の重ね方は素晴らしく、お見事でいらっしやいました。ご縁を頂き、色々学ばせて頂き、ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◆ W.R.

※心よりご冥福をお祈り申し上げます。（一般社団法人 大学女性協会仙台支部）

【 2023 年度 第 1 回交流会 】



◆ 2023 年 8 月 23 日（水） / 『音楽と私』 話題提供・I.A. 会員

2023 年 7 月 23 日、11:30 から 14:00 まで、エルパーク仙台 5 階特別会議室と音楽スタジオを会場にして、仙台支部第 1 回交流会を開催した。I.A. さん『音楽と私』のお話と参加者全員によるリコーダー合奏（岩倉さんのリードで）を行い、最後に美味しい食事で締め括った。参加者は 11 名。

はじめに司会の U.M. さんから I.A. さんのプロフィールが紹介された。I.A. さんは仙台市出身。宮城教育大学音楽科卒業。数多くのピアノ演奏会に出演。いろいろな演奏会での伴奏も手掛けておられる。（概略）その後、I.A. さんの話が始まった。

『父がとても厳しくて、毎朝 6 時に起こされて、食事の支度の手伝い、そして父が買ったりもらったり孵卵器でかえした動物の世話があり、毎食後の後始末は妹と私の仕事だった。育てた動物は犬（ポインター、スピッツ）、うさぎ、チャボ、うずら、金鶏、白鶏、アヒル、インコなどだった。いずれも、ある日突然何らかの理由があって父が連れてきて、それを世話するのは決まって私たち子どもの役割だった。その父はしっかり、「女・子供はうちのことはしっかりやりなさい」という考えで、家事については子どもに取り組みさせていた。

また、父は無類の音楽好きで、所有した楽器はアップライトピアノ、グランドピアノ、トランペット、ハーモニカ（5 台）、アコーディオン（3 台）、尺八（3 本）、リード式オルガン、フルート、オルゴール（5 台）と、色々だった。レコードもよくかけてくれた。ある日、メンデルスゾーンの『無言歌集』をかけてくれた時、私はそれがとても気に入った。それを見て父は、「これは音楽をやらせた方がいい」と岡崎秀子先生にピアノを習いに行くことになった。

岡崎先生には忘れられない思い出がある。私は『ツェルニー 30 番』が好きになれなくて、練習が進まなくて、レッスン日、父が買って来た曲を練習していった。それを弾いたらその曲をレッスンしてくれて「今度はツェルニーをやってきてね。」と優しく言われた。

その父は自分で歌曲を歌うが、決まって伴奏をさせる。うまく弾けないと怒った。『冬の旅』などむずかしく、必死で練習した。そんなことが重なってピアノがうまくなったのだろうと思う。

5 年生になると、外国にお住まいだった大西愛子先生が、時々帰国される時にレッスンを見てもらっていた。やっと、40 歳になったとき「あなたお上手になられたわね。」と初めていわれて、とても勇気をもらえた。

泉市立将監中学校の時に卓球部に入部。実は、今も続けていて、AQUA というチームに所属している。

宮城県第一女子高等学校時代は、進学は国立 1 本で、「落ちたら浪人しなさい」と言われており、宮城教育大学音楽科に進学した。とにかく家には早く帰らなければならなかったのが、練習時間が取れない。悩んだ。そのころ、松田馥子先生の初めてのレッスンにショパンの楽曲バルカローレを持って行ったが、第 1 音のみ、「こんな音じゃダメ」と。何度も何度も。その音だけ 1 時間のレッスンだった。はじめて泣いた。しかし、粘り強いところを評価してもらえ、あとから続くレッスンに生かしていくことができた。

大学院ができて、進学しなかったが、就職した。そこは鹿島台中学校。当時、荒れに荒れていた。生徒指導に追われた。荒れた子どもたちの背景に貧困があった。そこで、4年間務め、結婚、出産をした。

自分の子どもが、日ごとに笑わなくなっていくのを見て、決心して仕事をやめて、育児に専念した。主婦として暮らしてはいたけれど、ピアノの練習は続けていた。その音を聞いた近所の方に請われて自宅でピアノのレッスンをはじめ、その後、教室に発展していった。31歳のとき、高・大生が大半だった全東北ピアノコンクールに出場した。(第42回全東北ピアノコンクール 東北放送奨励賞受賞) 予選の出場順は1番で82人の参加者がいたが、本選に8人残った。その中に入れて、年をとっても何とかなれるかな、と希望を持った。

昭和8年生まれの子は、6年前に亡くなった。病床にあっても、みんなで合唱をするというのが、父の楽しみだった。』

質問の中から、I.A.さんのご両親は小学校の教師だったことがわかった。また、父の最後、母に「めんどろをかけたな。ありがとう。」と言って亡くなった。母はいろいろあったけれど、これを聞いてすべて「よかった」と。

そのあと、音楽スタジオに移動して、バルトークの「子供のために 第6番」を3部構成にして音符を用意してくださったのに合わせて、リコーダー演奏を皆で行った。学校で習っていない3人も何とかついていった。



※真剣な表情の三名



※小学校の音楽の授業のように楽しそう



※美味しいお弁当でした

【 2023 年度 公開講演会 】



◆ 2023 年 9 月 22 日（金） / 『脳の性差が生まれる仕組み ー神経発達障害の性差ー』 講師・吉川貴子会員

9 月 22 日（金）14:00～15:30 エル・パーク仙台 創作アトリエで 2023 年度の公開講演会が開催されました。講師は吉川貴子会員です。吉川さんは大学女性協会の国内奨学生（2011 年度）に採択されたのがご縁で仙台支部所属の会員となりました。数々の受賞歴をお持ちの若手研究者です。

- Hegg Hoffet 賞（2011 年度 International Federation of University Women）
- 紫千代萩賞（2019 年度 東北大学優秀女性研究者賞）
- 勾坂記念賞（2023 年度 公益財団法人長崎医学振興会）
- JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2023（2023 年度 日本神経精神薬理学会）

ご出身は塩竈市。埼玉大学理学部を卒業された後、東北大学大学院医学系研究科で医学博士号を取得されました。現在は発生発達神経科学分野助教を務めておられ、プロミネントリサーチフェロー（注 1）の称号をお持ちです。

講演会当日は会員 13 名（講師を除く）、一般 11 名の参加があり、定員 30 名の創作アトリエが狭く感じられました。

吉川さんは神経発達障害のメカニズムを探っておられます。神経発達障害にはさまざまな症状があり、自閉症スペクトラム症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害などが含まれます。症状によっては性差が大きく、例えば不安やうつは女性に、攻撃的行動や活動亢進は男性に多いそうです。

性が決定するのは受精の瞬間ですが、脳に男女の差が生まれるのは胎児の期間です。妊娠 12 週～22 週ごろに大量のテストステロン（男性ホルモン）を浴びることでヒトの脳は男性化することが知られています。

胎児の脳では発達過程の適切な時期に、細胞の異動やシナプスの形成などダイナミックなイベントが起ります。そのためには適切な遺伝子の発現と、分子レベルでの正確な働きが不可欠です。こうした精妙なメカニズムがどこかでうまく機能しないと、神経発達障害につながる可能性があると考えられています。

吉川さんたちのグループは 2020 年に「指定難病脆弱 X 症候群発症の新たな分子メカニズムの解明 胎仔脳での特定分子経路の活性化が原因の可能性」という論文を発表されました。脆弱 X 症候群は遺伝性で、精神発達遅滞や自閉的症状が現れます。発生頻度は男性で 7,000 人に 1 人、女性で 11,000 人に 1 人で、性差が大きい症候群です。吉川さんたちは脆弱 X 症候群の原因遺伝子（Fmr1）の機能が欠失したマウスを使い、胎仔（注 2）期の脳でタンパク質の合成を制御する経路が異常に活性化されていたことをつきとめました。この異常が脳の適切な発生発達を妨げ、脆弱 X 症候群の病態を引き起こす可能性があると考えられます。

こうした研究成果のお話しのほかにも興味深い話題がありました。薬剤の研究・開発の過程で「性差」という視点が欠けていたせいで、女性の健康が危険にさらされる事例があるということです。論文を作成するには説得力のあるきれいなデータが必要です。そのため実験用のマウスはホルモンなどの影響を受けにくいオスを使うことが多く、臨床試験の被験者も男性被験者が多かったので、開発された薬も効き方や有害事象の発生率が男女で異なることがあるそうです。現在は両性を研究対象とする論文の割合が高まったということですが、女性に効きにくい薬や有害事象が発生しやすい薬は存在するので気をつけなくてはなりません。

東洋医学では男女の違いを重視していて、漢方薬も鍼灸も性別に応じて処方を変えることが多いのですが、それに比べると西洋薬の使われ方はいささか乱暴だと思うことがありました。吉川さんのお話をうかがって、背景にある事情の一端を知ることができました。

性差が見過ごされてきたのは医薬品開発の現場だけではありません。例えば自動車の衝突試験では主に男性のダミーが使われてきたため、実際の事故では女性が大けがをするリスクが高いそうです。また、AIの開発においても技術者は男性の割合が高いため、データやアルゴリズムにバイアスがかかる可能性があります。女性の声や視点が反映されているか、きちんと検証する必要があります。

今回の講演会では、世の中のさまざまな場面に存在する性差について考える機会を与えていただきました。お忙しい中、講演のためにお時間を割いてくださった吉川さんに感謝申し上げます。今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(注1) 東北大学には「プロミネントリサーチフェロー」(令和3年4月1日施行)という制度があります。助教のうち「博士の学位取得から15年以内の者」、「独立した研究環境を有する者」等の要件を満たした研究者が推薦を受け、称号を付与されます。

(注2) 胎仔(子)とは、胎生の動物の母体の中で、器官原基の分化が完了してから出産までの成長途上の胚を指します。ヒトの胎子を特に胎児といいます。



※講師/吉川貴子会員

【 2023 年度 鑑賞会 】

◆ I.A.

◆ 2023 年 11 月 8 日（水） 『七十七銀行金融資料館』



11月8日（水）、七十七銀行本店 3F にある金融資料館の見学会に参加しました。

まず、入り口に円盤の金庫室大扉（直径 2 m 以上、厚さ 30cm くらい）があるのに驚きました。これは木製の模型ですが、それでもかなり重そうでしたから本物はすごい重量になるのでしょうか。3 F に設置したら床が抜けてしまうとのことでした。扉のすぐ後ろには映画に出てくるような金属の格子戸があり二重の警備構造になっています。格子戸の奥に貸金庫が並び、ここには様々な宝物（金の延べ棒や宝石等々）のプログラムが仕掛けてあります。手を入れてつかんでもつかめない・・・ちょっとワクワクしました。



さらに進むと昔の大判・小判・歴代の紙幣・硬貨・外国のお金など貴重なものが沢山展示されています。子供の頃に使っていたお金を見つけて懐かしくなりました。体験コーナーには 1 億円分の札束（約 10 kg）を自分で持ち上げるものや、台に乗ると自分の体重分の札束が落ちてきてそれがお値段で示されるなどの装置があり、勇気のある方達が挑戦していました！ 七十七銀行の誕生を紹介するコーナーでは、明治時代のルネッサンス様式の玄関と窓口部分が再現されていてノスタルジックな雰囲気があり、その時代の仙台と人々の暮らしに思いを馳せました。明治 11 年 12 月、153 行中 77 番目「第七十七国立銀行」として設立された名称を変えずに残されたのもうれしいことです。

また、代表取締役会長の氏家照彦氏が直々にお話しくださり、渋沢栄一と七十七銀行に深いつながりがあったことも初めて知りました。言葉の端々に、金融を通して日本をより良くしようとしたその時代の意気込みと、それを現代にも受け継いでいる気概のようなものを感じました。通帳・カードのコーナーには古い物から順に実物が展示されていて、主人と私の持っているカードが実に古い物だということが判明！ キャッシュカードが作られた第1号の意匠なのでした・・・そろそろ新しいカードが欲しくなりました。

あっという間の約2時間。非常に楽しく見学させていただきました。

ご提案くださったU.K.さま、準備をしていただいた銀行の方々に心より御礼申し上げます。



【ひとこと】

赤林京子様への追悼文を書いて下さった、A.C. 会員。

飯岡絹子様への追悼文を書いて下さった、W.R. 会員。

今年度第1回交流会のお話をして下さったI.A. 会員、レポートを書いて下さったN.N. 会員。

今年度公開講演会で講師を務めて下さった吉川会員、レポートを書いて下さったA.C. 会員。

七十七銀行金融資料館鑑賞会の日程調整等にご尽力下さったU.K. 会員、レポートを書いて下さったI.A. 会員。

毎回会場予約や準備・広報等をして下さり、本部とのやりとりをご報告下さった相澤支部長。

そして周囲の方々にお声をかけて下さった会員の皆様。本年も有難うございました。

皆様どうぞ良い年をお迎え下さいませ。(U.M.)



仙台支部便り(けやき)No.26 (2023年12月15日発行)

発行/(一社)大学女性協会仙台支部